

1. 「ドラマの方言」という研究テーマ

各種の方言コンテンツに用いられるヴァーチャル（仮想）方言の研究に、テレビドラマは格好の素材のひとつといえるでしょう。

そのドラマがいつ制作されたものなのか、そこで採用されている地域方言はどこのものという設定なのか、どのような登場人物にどのような非共通語的特徴が付与されているのか、そして付与された非共通語的特徴は方言研究の観点からみてどの程度正確なものなのか、さらにはそもそもそのコンテンツ作成にあたって「方言指導」などがついているのか、などなど見るべき観点もたくさんあります。

テレビドラマを素材とした研究を行うには、テレビドラマデータベースが利用できかつそのコンテンツ類が視聴できるということが前提となります。

以下では、テレビドラマに用いられるドラマ方言を調査するにあたって有用なデータベースなどを紹介します。図書館などの利用制限が多い中、インターネットで閲覧可能なものを優先して紹介します。さいごに、ドラマ方言についての研究と文献類のごく一部を紹介します。制約の中でもできることは結構たくさんあります。学部生のみなさんの参考になれば幸いです。

なお、以下において掲出したサイトの最終閲覧日は原稿提出日です。

2. ドラマ方言を調べるツール

2.1. テレビドラマデータベース

テレビドラマ全般について調べることが可能なインターネット上のデータベースを紹介します。

- ① テレビドラマデータベース（Copyright (C) 1997-2020 Furusaki Yasunari All Rights Reserved.） <http://www.tvdrama-db.com/>

『テレビドラマ全史 1953～1994』（東京ニュース通信社）をベースとしたデータベース。随時更新されており、最新のテレビドラマも含まれます。「詳細検索」画面にタイトルやキーワード、放送年や人名等を入力し検索できます。空欄や未選択の箇所があっても検索可能なので便利です。

2.2 「朝ドラ」のドラマ方言を調べるには

次に、方言ドラマといえば全国が舞台となり、「方言ヒロイン」をはじめさまざまなタイプの方言キャラクターが登場するNHK連続テレビ小説（通称朝ドラ）をはずすことはできません。1961年に放送が開始された朝ドラは、日本テレビ史上もっとも長いテレビドラマ

シリーズです。そのため、同じ枠においてどのようにドラマ方言が変遷したのかということ
をたどることが可能な数少ないシリーズです。朝ドラの概要は、次のサイトで学ぶことが
できます。

② 「NHK アーカイブス」 > 「NHK 放送史」 > 「朝ドラ 100」

<https://www.nhk.or.jp/archives/asadora/>

「朝ドラとは」で概要を学び、「作品一覧」で第1作『娘と私』から最新作までを一覧で
きます。「年表」には、各ドラマが放送された時期を一覧する「放送年表」と、ドラマの舞
台となる時代を一覧する「舞台年表」があります。

「放送年表」 <https://www.nhk.or.jp/archives/asadora/chronology/broadcast.html>

「舞台年表」 <https://www.nhk.or.jp/archives/asadora/chronology/area.html>

「放送年表」「作品一覧」からはそれぞれの「作品紹介」にリンクされています。そこ
では、各作品の「ポイント」と「あらすじ」、映像が現存するものについては概ね第一話の短
い映像（5分程度）が視聴できます。同サイトに掲出されている映像の範囲だけでも、どの
登場人物に、どのような非共通語的特徴が付与されているのか、などが読み取ることが可能
です。オープニングのタイトルロールが含まれる映像では、タイトルロールに「ことば指導」
（古くは「方言指導」と呼ばれたもの）が掲出されているのか、されているとしたらどのよ
うな言語変種に対して指導がついているのか、またその指導体制はどのようになっている
のか、そしてことば指導者は誰かなどの情報を得ることもできます。

日本俳優連合会の活動の一環として「ドラマの方言を考える会」というものがあり、各地
生育の俳優が主として「方言指導」にあたっていることなどもわかります。

「日本俳優連合会」 > 「活動内容」 > 「ドラマの方言を考える会」

<https://www.nippairen.com/about/active.html#i-7>

また、「朝ドラ 100」には、ドラマの主要舞台となる地域を地図で示した「ご当地マップ」
もあり、どの地域の方言が想定される作品なのかなどを探る手立てとして便利です。

「ご当地マップ」 <https://www.nhk.or.jp/archives/asadora/map/index.html>

最新作については特設サイトも解説されており、当該作品に対するより詳しい情報など
を入手することができます。

2020年度前期放送連続テレビ小説特設サイト

「連続テレビ小説エール」 <https://www.nhk.or.jp/yell/>

「朝ドラ 100」で公開されている映像に加え、さらに詳しい調査をしたい場合は、通常であれば東京都港区にある NHK 放送博物館 (<https://www.nhk.or.jp/museum/>) の 4 階展示フロアの「番組公開ライブラリー」を視聴したり、同じ階にある「図書・史料ライブラリー」で台本等調査を行うことができます。

現地を訪れることが困難な場合は、有料かつ限られた作品となりますが、以下のサイトから有料公開されている作品を視聴することが可能です。

現在放送中または再放送中の作品ならば個人的に録画するなどしてデータにすることもできます。

「NHK オンデマンド」 <https://www.nhk-ondemand.jp/#/0/>

「連続テレビ小説」

https://www.nhk-ondemand.jp/share/group/asadora.html?np_banID=gn_gp_02#/1/

2.3. 「大河ドラマ」のドラマ方言を調べるには

次に、日本のテレビドラマ史上最長の時代劇シリーズである NHK 大河ドラマ（1963 年放送開始）についても同様の方法でデータにアクセスすることができます。時代劇中心の大河ドラマは、現代劇中心の朝ドラほど「方言キャラ」の登場人物は登場しません。いわゆる戦国武将はほとんどケースで共通語キャラであることからそのことわかります。しかし、時代劇ながら方言をしゃべるキャラといえ、みなさんも何人かぱっと思い浮かぶ登場人物があるでしょう。長期にわたる同一シリーズの枠組みにおいて、ドラマ方言の変遷をたどったり、同じ登場人物間の台詞を比較したりと、さまざまな観点から検討が可能な資料といえます。

③ 「NHK アーカイブス」> 「NHK 放送史」> 「大河ドラマ全リスト」

<https://www2.nhk.or.jp/archives/search/special/detail/?d=taiga000>

サイト内に「大河ドラマ一覧」があり、最新作には特設サイトがあることは、「朝ドラ 100」と共通しています。

「大河ドラマ一覧」 <https://www.nhk.or.jp/kirin/taiga/>

2020 年放送『麒麟がくる』特設サイト <https://www.nhk.or.jp/kirin/>

より詳しい調査をしたい場合も朝ドラと同様の方法が使えます。NHK 放送博物館 (<https://www.nhk.or.jp/museum/>) の 4 階展示フロアの「番組公開ライブラリー」を視聴

したり、同じ階にある「図書・史料ライブラリー」で台本等調査を行う、NHK オンデマンドで有料公開されている作品を視聴する、現在放送中または再放送中の作品ならば個人的に録画する一などです。

3. 辞典・事典データベースを活用しよう

テレビドラマで使用されている非共通語特徴をもつ語彙などの分布地域やその意味などを調べるには、通例であれば各種の方言辞典類にあたりたいところですが、なかなか図書館に赴き、複数の紙の辞典にあたるのが難しい状況にあるかもしれません。

そのような場合は、インターネット経由で検索可能な辞典・事典類データベースを活用することをお勧めします。ご自身がデータベース利用契約を結んでいる機関に所属している場合、多くの場合、無料で利用することが可能です。所属している機関が大学等の高等教育・研究機関であれば、所属機関内でのデータベース使用にとどまらず、機関外からのアクセスがほとんどの場合許可されています。ただし、機関によりそのアクセス方法やアクセス可能数、検索可能な資料体は異なるので、自身の所属している機関の図書館サイトなどで確認をしてみましょう。

大学等に所属していない場合は、近隣の自治体等が運営する図書館で同じデータベースが使える場合があります。これも多くの場合は、近隣の図書館サイトなどで、理由契約の有無や使用方法などについて確認をすることができると思います。ただし、大学等に比べ自治体等の運営する図書館の場合、ネット等による館外からの利用許可はあまり進んでいないかもしれません。

ここで述べた辞典・事典類データベースには、以下のようなものがあります。

④ ジャパンナレッジ (ネットアドバンス) <https://japanknowledge.com/library/>

「ジャパンナレッジ」>「ジャパンナレッジ Lib とは」

「70 以上の辞事典、叢書、雑誌が検索できる国内最大級の辞書・事典サイトです。基本検索はすべての辞事典を横断検索しやすいうようにシンプルな作りをしている一方、詳細(個別)検索では各辞事典に応じたオリジナルな絞り込み機能(ファセット)を加え、より詳しく検索できるようになっています。」

(<https://japanknowledge.com/library/aboutlib.html> より)

ジャパンナレッジは、日本語の辞典類だけでも『デジタル大辞泉』や、日本最大の日本語辞典である『日本国語大辞典 第二版』や、これも日本最大級の方言辞典である『日本方言大辞典』など 9 種類 (2020 年 6 月 10 日現在) あり、これらを横断的に検索できて便利です。

4. 方言ドラマ研究事例

テレビドラマを用いた方言研事例を紹介します。

まずご紹介するのは手前味噌でまことに恐縮ですが、朝ドラと大河ドラマのオープニングタイトルロールに着目した「方言指導」の歴史から日本語社会における方言の価値をたどったもの（文献①「第5章 メディアと方言」巻末付表1・2、文献②「7章 テレビドラマとヴァーチャル方言」「8章 ドラマにみる「方言」の変遷」巻末付表1・2）、大河ドラマ等に登場する「坂本リョウマ」の台詞の変遷を通じ特定の登場人物と特定の方言が結びつく過程をたどったもの（文献①「第4章 坂本龍馬はいつから土佐弁キャラになったのか」）です。

もう一つは、関西人はコンテンツに用いられる「関西弁」に敏感だといわれるがそれは事実かということ、関西を舞台とした朝ドラの台詞を聞かせることによって確認したもの（文献③）です。はたして関西人はニセ関西弁を見破れるのか…。結論は原著を読んでのお楽しみとさせていただきます。

文献① 田中ゆかり（2011）『「方言コスプレ」の時代 ニセ関西弁から龍馬語まで』岩波書店

文献② 田中ゆかり（2016）『方言萌え!? ヴァーチャル方言を読み解く』岩波ジュニア新書

文献③ 中井幸比古（2019）「関西人はエセ関西弁を見破れるか？」『方言の研究』5 日本方言研究会

5. コンテンツに現れる方言研究を目指す人への読書ガイド

図書館や博物館等の実地での利用がままならない状況がいつまで続くかわかりませんが、入手可能であれば書籍・論文を読んだ上で、データを見るとその見え方も変わってきます。

学部生においても手に取りやすく、大学や近隣の図書館での閲覧できそうなものを以下に示します。参考にしてください。

- 木部暢子・竹田晃子・田中ゆかり・日高水穂・三井はるみ（2013）「第5章 「方言」から見える日本の社会」『方言学入門』三省堂
- 金水敏・田中ゆかり・岡室美奈子編著（2014）『ドラマと方言の新しい関係 『カーネーション』から『八重の桜』、そして『あまちゃん』へ』笠間書院
- 小林隆・真田信治・陣内正敬・井上史雄・日高貢一郎・大野眞男（2007）『シリーズ方言学 3 方言の機能』岩波書店
- 田中ゆかり・金水敏・児玉竜一編著（2018）『時代劇・歴史ドラマはセリフで決まる！ 世界観を形作る「ヴァーチャル時代語」』笠間書院

5. おわりに

今般の感染症拡大抑止のために番組の収録が進まず、朝ドラも大河も放送の一時休止の措置がとられることが発表されました（2020年5月15日）。今後の放送予定については、それぞれの特設サイト等で告知されるそうです。

「新しい日常」がどのようなものとなるか、誰もが試行錯誤の毎日ですが、インターネットを活用することによって案外いろいろなこともできそうです。今回は一例としてヴァーチャル方言研究事例としてテレビドラマを用いた方言研究方法を紹介しました。もちろん、方言以外にもテレビドラマを用いた言語研究は、いろいろできるので、いろいろ活用してください。

（原稿提出日 2020年6月10日）